

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1174800597		
法人名	社会福祉法人みな福祉会		
事業所名	グループホーム大浜		
所在地	埼玉県秩父郡皆野町皆野302-2		
自己評価作成日	平成24年11月26日	評価結果市町村受理日	平成25年1月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku_ip/11/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=true&amp;JigvosoCd=1174800597-00&amp;PrefCd=11&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku_ip/11/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=true&amp;JigvosoCd=1174800597-00&amp;PrefCd=11&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所		
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88逸見ビル2F		
訪問調査日	平成24年12月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

畑で野菜を育て土や植物に触れる事ができます。また、食材として利用し季節感のある食事作りをしています。日々の様子はパソコン入力し、月一回家族にお知らせし喜ばれています。個別の対応に力を入れて毎日の日課の中で一人ひとりに合った家事や製作を行なったり外食の機会を作ったりしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念である「その人らしく自分らしくそして、地域の暖かいふれあひの中でいきられるよう認め合い支え合って暮らす」ことが日々の利用者や家族に対する支援に具体的に落とし込まれており、安心した暮らしの提供ができています。日常生活の各場面においては、利用者の参加があり、利用者の意見・知恵が活かされ自分らしくいられる居場所が確保されている。家族に対しては、毎月利用者の状況が手に取るようにわかる工夫がされた記録が送付されている。職員間では、理念の共有や意見を交わしやすい環境が整っており事業所一丸となりケアにあたっているため笑顔が絶えない空間である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念「その人らしく自分らしくそして、地域の暖かいふれあいの中で生きられるよう認め合い支えあって暮らす」に沿うよう、毎月の会議で日々の援助方法の指導や誕生会等の行事など実践している。	法人の理念を基本に、グループホームの職員全体で考えた理念を掲示している。職員がいつでも確認できる場所に掲示しており、ミーティングや全体会議の際に必ず確認し、サービス提供につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお店で食材等の買い物や美容院に行ったり、又散歩やホームの畑での作業中など、近隣者と交流を持っている。平成22年度より、近隣者の協力を得て、消防訓練を実施している。	近所の床屋がホームに来てくれることや、地域の方がぶどうや柿等の差し入れがあるなどの交流がある。散歩や畑作業の際も地域の人との会話の場面があり、日常的に交流している。	AEDが設置されていることを地域の方に周知でき、相互の関係性をさらに深め、交流が活発になることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	開設当初より事業所だけでなく法人全体で民生委員の見学の受入や町主催のふれあい祭りで法人の出展コーナーもあり相談を受け付けている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回業務・行事内容の報告と平成24年1月の会議で外部評価の結果について報告をしている。避難訓練では、区の自主防災会との連携し、協議会を開き実施している。	今年は予定通り、4回の運営推進会議を実施している。活動報告や理事会の内容、外部評価の結果等報告と参加者からの質問について対応するなど充実した内容となっている。消防訓練等と同時に実施することもある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	随時変更・更新申請などの基準等不明なことは相談し、又、指導・アドバイスを受けながら進めている。	介護保険課の担当者との関係は良好であり、直接窓口を訪れるほか、メールや電話での連絡を取っている。秩父郡市地域密着連絡協議会の参加を通して密な情報交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業計画の重点事項の一つにあげ、法人施設長が新年度が始まる前の職員会議で職員に説明し、法人全体として取り組んでいる。	ホーム内において施錠をしないことをはじめ、身体拘束をしないケアが実践されている。身体拘束に関する研修は事業計画に盛り込まれており適切に実践されている。また日々の実践の中でスタッフ同士で確認し合える環境である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業計画の重点事項の一つにあげ、法人施設長が新年度が始まる前の職員会議で職員に説明し、法人全体として取り組んでいる。又、随時家族にも虐待の種類や町への通報について説明している。	/	/

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、職員は成年後見制度の研修を受講している。入所者のうち1名入所後申請もう1名は現在申請中。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前には介護方針やケアのすすめ方等、契約時には具体的な契約内容、個別のケース対応の取り方など説明と相手からの質問など受けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見要望等管理者会議、運営推進会議で報告検討し、又評議委員会・理事会の事業報告・中間報告でも報告している。又、事業報告はグループホームだけでなく法人の他の事業所へも閲覧できるよう公開している。	行事や面会の際、家族との情報交換を行っている。また家族会を開催し家族が意見・要望を表せる場を設けている。利用者の意見・要望もスタッフが日常的に汲取っており、家族・利用者の意見・要望が運営に活かされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人の全職員対象に職員意識調査を毎年実施し職員の意見を聞いており、又結果について管理職会議(調整会議)で報告検討している。	支援に必要な相談に対し、できることはすぐ対応する等日常的に職員が管理者へ相談しやすい環境が整っている。管理者は「職員の個性を生かす」ことを運営において実践している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回人事考課を行いその評価に応じ年2回の賞与と年1回の昇給に反映させ、又、資格取得者に手当を支給している。24年7月の職員会議では、地元病院の臨床心理士に依頼し「こころの健康を保つためのコツ」を講義して頂く。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員会議、グループホーム会議の内部研修では一人一人の出席率を把握・評価し、又外部研修にも積極的に受講するよう命令を出している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	秩父郡市地域密着型サービス事業者連絡協議会の研修会に参加し交流も深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の不安や困り事を傾聴し現状の把握に努め、医療機関や家族との連携を図りながら、施設生活を安心して過ごしていただけるよう、性格や生活習慣を確認しながら援助を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時に、家族と十分に話し合いを行っている。状況の変化のある時には、電話にて相談を行なっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の意向や希望の把握に努めケアを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	古くからの慣習、例えば節分の飾り物等や郷土料理を職員が利用者から教わりながら一緒に作り、季節行事を楽しまれている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	状況の変化のある時には、家族に電話にて相談しながら、面会や買い物・外食等協力していただき、ケアのアドバイスも頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容院やかかりつけの医療機関を利用し馴染みの関係を大切にしている。	利用者の結婚してから住んでいたところに誕生日会と合わせて訪れたり馴染みのあるお祭りに参加したりと希望に対応している。理容院が出張してくれるようにもなった。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の状況を見ながら職員が間に入り、話し相手になったり関係を築いている。食事の席もその状況を見ながら、臨機応変に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時に「何かあったらご相談下さい。」とお話するが、こちらから積極的に関係を継続することはしていない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の思いや希望を聞きながら、家事のお手伝いをやっていただく方や、通院の時に外食される方、杖歩行を希望されている方は、生活リハビリ等の援助を行っている。困難な場合は、普段の生活の様子やご家族からの希望なども考慮して、会議で情報の共有を図っている。	自分で洗濯物を干したいという利用者にフックを利用し高さ調整をし座ったまま干せるようにする等、日々利用者の意向に対して実現できるように努めている。表現が難しい利用者へもスキンシップの中から思いを汲取り対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約前後に家族と本人に話を聞いている。担当の居宅ケアマネからの情報も得ている。本人からは、毎日の関わりの中で会話を通して把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活スタイル、一日の体調や気持ちの変化の様子、本人の持っている力を理解し、やりたい事を把握する。月一回の会議で検討したり、変化のあるときには相談し、申し送り帳に記録し、ケアの統一を図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族からは、面会時や事務連絡での電話の時等に話しをうかがっている。本人には、日頃の関わりから状態を把握し、ケアカンファレンスにて、現場の意見を取り入れながら介護計画を作成している。	本人の言葉を計画に反映させるほか、家族のグループホームに対する期待することも盛り込んでいる。利用者の日々の様子はスタッフ全員で情報交換し、計画作成している。認知症のステージがわかるマニュアルを使用する等工夫されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子等は、個別にPCに入力しながらケアを実践し、職員間で情報を共有し、ケアプランの改善に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期通院、緊急時の通院支援、行きつけの美容院への外出、日用品の買い物、外食。1階デイサービスで利用者と予防体操を行ったり、西棟の利用者との交流。介護が重度化した方の訪問看護の利用(月2回)等、本人の希望に応じた支援に心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	歌や音楽、踊りのボランティアに来てもらい、生活に楽しみを持っていただいている。地元の方の祭りに参加され、郷土料理の試食や、草花をもらい楽しく過ごされている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、家族と十分に話し合いをした上で、本人・家族の希望に沿うようにしており、入居以前からのかかりつけ医の受診支援も行っている。通院も家族の同行が必要な場合は同行していただいている。	本人の希望を実現するために家族の協力を得ながら、かかりつけ医の受診支援を行っている。利用者が適切な医療を受けられるように職員が受診時にサポートを行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師資格のある職員を計画作成担当者として配置している。体調不良時や緊急時に看護師に報告し、医療機関への相談や、通院支援を行っている。訪問看護への連絡は携帯電話にて、状態の報告は行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は定期的に面会に行き、病院スタッフに確認し、家族にも報告を行い退院時の受入に備えている。かかりつけ医へ、入院中の状態を報告し定期薬の処方をしていただいている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の状態を見ながら基本方針として、施設での対応が難しい場合には、家族と相談を行い、他施設への移転となる。終末期については、家族や医師と相談しながらの対応となる事を入所時に伝えている。	重度化した場合や看取りについての方針は、入所時に家族へ伝えている。家族内でも十分に話し合うことを勧めており、ホームでできることを十分に伝え対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	グループホーム会議にて、急変時の応急手当の方法を学び実践に活かしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に、夜間想定避難訓練を実施し、利用者も援助を行いながら、戸外へ避難している。地元町会との防災協定を結び、協力をお願いしている。平成24年9月に、地元自主防災会の役員の方や近隣の方々を交えた消防訓練を実施している。	地域の第3避難所となっている。災害時の協定書を地域と取り交わしており消防訓練や炊き出し訓練、夜間想定避難訓練等利用者を交え共同で実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者への言葉掛けや、入浴・トイレ誘導時などプライバシーに配慮した対応に心がけている。記録や個人情報の取り扱いについても徹底している。また、ボランティア・実習生の受け入れ・外部における行事への参加時・通院時なども個人情報に対する配慮をしている。	利用者のその時々状況に合わせ声かけの工夫をしている。排泄時は特に他の利用者にはわからないように配慮した言葉かけ、対応を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の気持ちに寄り添えるよう、日々の関わりを大切にしている。おやつ等も食べたい物を聞き一緒に手作りする事もある。誕生会では、食べたい物を聞き、手作りして皆で祝っている。入浴後や外出時の洋服選びをさせていただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員間で連携し、利用者のペースに合わせたケアに心掛けているが、重度化された利用者の対応もあり、個々のペースに合わせた支援が不十分である。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪はその人の希望で理髪店、美容院へ行っている。(毛染めをされている方もいる。)外出の出来ない利用者は、近くの理髪店から出張してもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	手打ちうどんやギョーザ・コロッケ等を職員と一緒に作ったり、料理の下ごしらえや味見もお願いしている。利用者と一緒に買い出しに出かけ、食べたい物を選んでいただいている。	畑で採れた野菜等が食卓に並ぶ。食事を作る段階から利用者に参加してもらっている。食材の使い方、調理方法等、利用者からスタッフが教えてもらうこともある。季節感を取り入れた食事内容となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事状況は毎食チェックしている。医師の指示でカロリー制限のある利用者の援助も行っている。食事形態も個々で提供し、むせのある利用者には、とろみをつけたり、ゼリーにて対応している。一日を通して水分補給を行い、体調の変化に応じた食事提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その方の状況に応じて、食後のうがいや歯磨きは声掛けをして行っている。夕食後の義歯洗浄も職員が預かり行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	気持ち良く過していただく為にその人の排尿パターンや排泄のサインを見て、トイレ介助を行っている。排泄状況も排泄表に記録し、ケアに活かしている。ケアを拒否される場合は無理に行わず、様子を見ながら見守りや介助を行っている。	排泄チェック表を活用し、利用者個々の排泄リズムや心身機能に応じた対応を行っている。立ち上がりが困難な方でも、職員の適切な介助によりトイレでの排泄が可能となっている。排泄行為が視覚的にわかるように絵を貼るなどの工夫もしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃の排泄状況を確認しながら繊維質の野菜や乳製品を取り入れ、水分補給を行なっている。その方の状態に合わせて、散歩や運動も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望を聞き、入浴回数を増やしたり、入浴出来なかった場合には、日にちの変更等調整を行っている。体調不良時には、清拭・着替えを行い、重度の方には、機械浴も行なっている。	ゆず湯やじょうぶ湯等、季節感を取り入れている。本人の希望を基本であるが、希望が重なることもあり、利用者からの意見を踏まえ入浴カードを作成し、順番が不平等にならないように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の状況によっては、食後に時間を見ながら休んでいただいている。部屋の温度・湿度調整や照明は利用者の状況を見ながら環境整備を行う。冬場は希望を聞きながら、湯タンポ等使用している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルを作成し、現在服用している薬を理解し、薬をセットする人、与薬する人、服用の確認をする人の3人の職員で対応している。会議にて薬の勉強会を行い、誤薬について・基本的な薬の知識を学んでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	料理の下ごしらえ、草花の手入れ、掃除、洗濯物を干したり畳んだり、家庭菜園など出来る事をやっている。利用者どおしで、五目並べを行なっている。図書館で本やCDを借りてきて、利用者と一緒に楽しんでいる。個別対応で外出・外食・買い物など楽しく過せるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の食品の買い物は交代で出かけている。お天気を見ながら、屋外への散歩や、苑の菜園まで、散歩を楽しみながら、野菜の収穫に出掛けている。家族と一緒にお墓参りや外食に出掛けている方もいる。	菜園まで行くことをはじめ、利用者の希望に応じて散歩も日常的に行っている。馴染みの場所や外食等も誕生日に合わせて外出するなど工夫し支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の能力で自己管理している方、ホームで全て管理する方がいる。それぞれの方の状況に応じて使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたい時、ホームの電話を使用してもらっている。年賀状の書ける方には書いてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには季節の草花を生けたり、利用者の作品を飾っている。新聞・雑誌・テレビ等自由に見てもらっている。季節行事も利用者を交えて楽しんでもらっている。	利用者の得意なことを生かした作品や季節を感じるができる花が飾られている。利用者の身体機能に合わせ、ソファやこたつの位置が工夫されている。心地よい日差しが入り暖かい場所でリクライニングソファを使い体を休めることもできる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ベランダや玄関の縁台やコタツのスペースにて気の合った人たちで、談話されたり、お一人でゆっくり過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族をお願いして、以前使用していた家具や、馴染みの深い物を持ってきてもらっている。写経や家族の写真を飾っている人もいる。	利用者の使い慣れた家具が配置され、配置の仕方も好みや使いやすさが反映されている。利用者の個別性を尊重した実践がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リビング内の手すりを使用し、歩行訓練をされている方や、車椅子の方でも、トイレの手すりを使用し自立した生活が送れるよう支援している。字の得意な利用者には筆で掲示物を書いてもらっている。		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念「その人らしく自分らしくそして、地域の暖かいふれあいの中で生きられるよう認め合い支えあって暮らす」に沿うよう、毎月の会議で日々の援助方法の指導や誕生会等の行事など実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお店で食材等の買い物や美容院に行ったり、又散歩やホームの畑での作業中など、近隣者と交流を持っている。平成22年度より、近隣者の協力を得て、消防訓練を実施している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	開設当初より事業所だけでなく法人全体で民生委員の見学の受入や町主催のふれあい祭りで法人の出展コーナーもあり相談を受け付けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回業務・行事内容の報告と平成24年1月の会議で外部評価の結果について報告をしている。避難訓練では、区の自主防災会との連携し、協議会を開き実施している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	随時変更・更新申請などの基準等不明なことは相談し、又、指導・アドバイスを受けながら進めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業計画の重点事項の一つにあげ、法人施設長が新年度が始まる前の職員会議で職員に説明し、法人全体として取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業計画の重点事項の一つにあげ、法人施設長が新年度が始まる前の職員会議で職員に説明し、法人全体として取り組んでいる。又、随時家族にも虐待の種類や町への通報について説明している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、職員は成年後見制度の研修を受講している。入所者のうち1名入所後申請もう1名は現在申請中。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前には介護方針やケアのすすめ方等、契約時には具体的な契約内容、個別のケース対応の取り方など説明と相手からの質問など受けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見要望等管理者会議、運営推進会議で報告検討し、又評議委員会・理事会の事業報告・中間報告でも報告している。又、事業報告はグループホームだけでなく法人の他の事業所へも閲覧できるよう公開している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人の全職員対象に職員意識調査を毎年実施し職員の意見を聞いており、又結果について管理職会議(調整会議)で報告検討している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回人事考課を行いその評価に応じ年2回の賞与と年1回の昇給に反映させ、又、資格取得者に手当を支給している。24年7月の職員会議では、地元病院の臨床心理士に依頼し「こころの健康を保つためのコツ」を講義して頂く。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員会議、グループホーム会議の内部研修では一人一人の出席率を把握・評価し、又外部研修にも積極的に受講するよう命令を出している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	秩父郡市地域密着型サービス事業者連絡協議会の研修会に参加し交流も深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人に困り事、不安なことを聞いている。習慣なども本人から聞くようにしている。本人の欲しい物や食べたい物などの希望も取り入れるよう努力している。入所時に家族にアセスメント表の記入をお願いし社会生活暦等が分かるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時に家族との話し合いの時間が充分取れるようにしている。精神的負担なども理解し家族の立場になって考えるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族と十分に話す時間を持っている。対応方法を考えたり、アドバイスしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人らしさを大切にしている。喜怒哀楽を共にして本人の思いのまま、ありのままの姿で生活してもらえよう努力している。又、人生の先輩である利用者から暮らしの知恵や慣習など教えていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話で連絡をこまめにとっている。本人の状況に応じ家族に協力していただきながら援助している。家族の希望で受診時の同席をしていただく方もいます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望・要望を聞き馴染みの美容院に出掛けたり通所介護にいらしている友人に会ったりしている。必要に応じて家族に協力をお願いしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う人たちが落ち着ける環境を作っている。孤立したりしているときは、職員が間に入って関係がうまく作れるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もしばらくは連絡を取れる体制を作っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で本人の思いや希望などを聞き気持ちに寄り添えるよう努力している。困難な場合は本人の様子を観察し短時間のミーティングや、会議で話し合っ共有している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常会話、家族との連絡のやり取り、アセスメントなどを通じて話を聞いて把握に努めている。又、入所時は居宅ケアマネ、病院の相談員からも情報を得よう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常会話、家族との連絡のやり取り、アセスメントなどを通じて話を聞いて把握に努めている。又、入所時は居宅ケアマネや病院の相談員からも情報を得よう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンス、会議など必要に応じて行っている。家族とは電話連絡・面会時を通して行い、本人とは時間を作り話しながら意見など反映している。受診時には主治医や病院の相談員からも話を聴くようにしている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルを使用して整理している。PCも使用し記録管理している(平成22年1月より)		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期通院以外でも、本人の状況、希望に合わせた通院、地域の理美容店に出かけたり、馴染みの場所への外出や外食など、多様なニーズに合わせて対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	歌・音楽のボランティアや小学生・幼稚園児などに来ていただき、ふれあいを通して楽しみを持っていただいている。又、平成22年7月より、町内ボランティアの方に月数回来ていただき会話や散歩などしていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前からのかかりつけ医に引き続いて受診できるよう援助している。本人・家族の希望により受診も行っている。受診時には生活状況が医師にわかるよう援助している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	計画作成担当の一人が看護師資格を有している。必要時、相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はこまめに面会に行き様子を把握している。病院関係者・家族と共に十分に相談しながら対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、重度化・ターミナルの方針をあらかじめ伝えている。本人・家族・主治医と十分に相談しながら決めていく。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	会議などを通して応急手当などの訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に夜間想定訓練を行っている。利用者にも協力していただき、戸外に避難する。地元の方と防災協定を結んで、協力をお願いしている。H24.9地元町内会・消防署合同避難訓練を行った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使い、表情、態度、しぐさには十分気をつけて対応している。会議のときなど、注意を呼びかけている。入浴時や排泄時などもさりげなく行うよう努力している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ本人の希望に合わせているが、まだまだ不十分であり、職員の意識向上に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースを大切に考え対応しているが、まだまだ不十分で、職員のペースになりがちな部分も見られるので、注意して対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髭剃りや整容の支援を行っている。希望の理髪店・美容院に行っている。起床時も髪の毛のセットなど声を掛けながら行っている。その日着る衣服もなるべく自分で選べるように援助している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で取れた食材、季節の食材を使ったり、うどん打ち、コロッケ・キョーザなどおかずを一緒に手作りしている。食事の際はコミュニケーションをとって、楽しく食べられるように援助し、配下膳、後片付けも一緒に行っている。おやつもたらし焼きなど一緒に作っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の身体状況・主治医の意見も参考にしている。状況にあった形態にして摂取している。月1回体重測定をして、食事量を記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、うがい・歯磨き・義歯洗浄をしている。夜間は義歯の消毒をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の状況、排泄表を見ながら定時誘導や声かけを行い、車椅子使用の人もトイレでの排泄ができるよう、残存機能を活用しながら支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状況を見て、水分量を増やしたり、食事内容を変えている。又、散歩・体操など身体を動かしている。通院して主治医に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日、時間はある程度決まっているが、一人一人、ゆっくり入浴していただけるよう支援している。又、予備日は希望者が入れるように、特別（柚子湯など）なときは、お知らせポスターを作ったりしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	気持ちよく休めるよう布団干し、洗濯など行っている。着替え・湯タンポの使用をして安眠できるようにしている。睡眠時間は一人ひとりに合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬のチェック表を作成し確認、準備している。薬の説明書を読んでいただき、理解していただいている。本人の状態や薬の変更時などは、必要に応じ受診や医師への連絡を取るようになっている。分からない事は医師や薬剤師に聞いたりしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や洗濯干し、食器拭き等その人その人に出来る事を行っていただいている。草花の水やり、畑の草むしり、野菜の収穫なども行っている。人によっては、デイの利用者と時々交流を図っている。又、布団の上げ下ろし・起床時コーヒを飲むなどの習慣を取り入れながら支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	時により、家族が対応してくれる。買い物・散歩などほぼ毎日交代で出かける。季節ごとの行事でドライブに出かけたり、外食に出かけたり、散歩に出かけたり、その他希望など聞きながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理の人がいる。本人の能力状況に応じて使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族と相談できる人は施設の電話を使用している。番号は職員が押して手渡す。かかってきた電話は本人に出ている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	夏には西日対策ですだれを使用し、心地よく過ごせるように支援している。テーブルには季節の花を飾り、落ち着ける空間を作っている。居室によっては草花を置いて水をやりしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ベランダ・玄関先にベンチや花を置いたり、いつでもこたつに入れるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族と相談しながら、持ってきてもらっている。又、写真を貼ったり、活動の作品を貼ったり置いたりしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の状況に合わせ手すりを使ったり、居室には表札、必要な人は暖簾をつけている。トイレ内に排泄場所だと分かるイラストを貼ってある。押し車などの使用もおこなっている。		